

# 世界に広める「日本の経理・財務」を創立

第7回



1936年生まれ。東京大学農学部卒業後、信越化学工業に入社。以来38年間、経理財務部門の実務一筋。前金融監督庁(現金融厅)顧問や公認会計士試験委員などを歴任。現日本CFO・経理・財務責任者協会最高顧問。著書は2010年1月現在で、共著編著監修を含めて123冊。社交ダンス教師の資格も持つ。

Akira Kaneko

私は、日本の経理・財務は“世界一”だと信じている。およそ10年前、経済産業省の肝いりで作成された「経理・財務サービススキル・スタンダード」(FASS)が、中国・タイ・韓国・フィリピンをはじめとするアジア各国から高い評価を受け、ブラジル・アメリカ・ヨーロッパなどからも注目される存在となっているという事実は、その証の一つである。そんな“世界一いいもの”を、当の日本人が認識していないとしたら、まことにもったいない。

2011年1月1日、私は「世界と／または日本『経理・財務』研究学会 (World and/or Japan “Accounting & Finance” Association)」という名称の、世界中の誰もが自由に参加できる学会を立ち上げ、行天豊雄さんに最高顧問をお願いし、会長に就いた。38年間にわたる自らの「経理・財務」の実務上の体験・知識(エンピリカル・ナレッジ)を踏まえ、またFASS検定の取り組みを通じて磨かれてきた、世界に誇れる「経理・財務」の考え方やノウハウを、広く日本中、世界中に広めていくのが目的である。

実務体験で私が確信したのは、「会社・店・個人企業・個人(会社等)が守るべき『経理・財務』原則」は、そうした会社など自身の実務の歴史から抽出されるべきである」ということだ。FASSにはそうした“思想”が貫かれており、試験問題の開発は会計士や学者を一人も入れずに、会社などの経理部長や財務部長のみのグループが行った。だからこそ、世界に冠たる日本実務の「スタンダード」になっている。

## Accountant's Opinion

「研究学会」の目指すものは、①会社などのトップから一般社員、店長から店員まで誰もが、②極論すれば1円のお金も1秒の時間も使わずに、③「経理・財務」を自らが自由に学んだり考えたりできる“宙(そら)”をつくるきっかけとなり、④世界に誇れる日本の「経理・財務」を世界の人々と共に共有し、⑤日本中、世界中の人たちが幸せになるための「経理・財務」をつくり上げること——である。

私は、「会社」や「経理・財務」は、人間が幸せになるためにあると考えていた。ところが現状は、「グローバル」「インターナショナル」「アメリカン」などの財務会計に振り回されるあまり、この当たり前の真理がかすんでしまっている。「グローバル」な視点は必要だが、あら探しを旨とするような「企業性悪説」に傾いた議論ばかりが目立つののは、おかしい。そうではなくて、もっと世界中の会社は、1円でも利益を挙げて雇用を守る「経営会計(Management Accounting)」に則って活動する「企業性善説」に重きを置くべきなのだ。そのような議論をしたいと、誰もが思っているのではないだろうか。

たいへんありがたいことに、「研究学会」の最高顧問を、先述した日本CFO協会・国際通貨研究所の理事長でもある行天豊雄さんが引き受けてくださった。副会長は、FASSの研究と普及に無償で尽力してこられた小畠哲哉さん(NTT東日本取締役・神奈川支店長)、木村幸彦さん(公認会計士)、白石学さん(税務研究会・執行役員)。評議員10名、事務局3名(主幹事は税務経理協会常務の大坪克行さん)という布陣である。

まずは日本人全体が、国内約1000万ある、会社・店・個人企業・個人(会社等)に日本の「経理・財務」は“世界一”であることを認識し、自信を持ってもらいたい。それが「研究学会」創立にかけた私の思いである。

前金融監督庁(現金融厅)顧問  
経済・金融・経営評論家

金児昭